

戯曲リーディングという活動を通して伝えたいこと

河内千春（早稲田大学）

2010年度より「戯曲を読む」という日本語クラスを担当している。中級・上級レベルの学生が対象で、週一回90分のクラスが15回続く。クラス人数は、現在は30人前後になることが多く、日本人学生ボランティア2~3人も参加する。

このクラスの目的、つまり、クラスを通して伝えたいことは、日本語の戯曲を読むことで、自然な日本語会話表現に慣れること、日本人の生活や世界の状況を知ることである。

学期15回の前半と後半で2つの戯曲を読む。最近は『水の手紙』（井上ひさし）の一部と『東京ノート』（平田オリザ）の一部を読むことが多い。まず全体の読解を行い、2グループに分け、それぞれ場面ごとの役を決めて読む練習を行う。テストはグループごとのリーディング発表である。また、作品のテーマについてのレポートと演じた感想（合わせて600字程度）を提出、発表する。

クラスは意欲的な学生が多いが、何のクラスか分からず登録し、途中で来なくなるといふ学生もいる。対応策としては、オリエンテーションでの説明と体験であるが、この時欠席した学生に問題が多い。書かれている文字を読み取るだけで精一杯という学生もいる。

学期最後の学生の感想として「日本語の話し方に少し自信が持てるようになった」「テーマとなっている問題についてもっと詳しく知りたい」「日本の演劇についてもっと知りたい」などが挙げられている。クラスの目的は達成されているといえる。

日本語能力とは直接関係ないのでクラスの目的とはしていないが、皆で協力して作り上げ達成感を味わうこと、実は、これは演劇の楽しさであり、これも私がクラスを通して伝えたいことである。